

# 「最後は私の責任で」

村井 知事 堤防予定地を視察

沼 仙 気

村井嘉浩知事が21日、気仙沼市の海岸堤防建設予定地を視察した。計画見直しを求め、住民の意見に対し、村井知事は「津波被害を最小限にできる具土をつくりたい」という思

いがある。500年、600年後に住む人たちのことも考えなければならぬ」と堤防の必要性を説明した。

はじめ、唐桑町の西舞根、鮎立、小鯖。村井知事に現地訪問を求めた。畠山和純県議、小野寺五典衆議院議員、菅原茂市長らが同行した。魚町では、地域住民が「堤防があると安心

してしまって逃げ遅れる」「財産への被害は覚悟し、逃げることを徹底すればいい」と計画高に異論を唱えたが、村井知事は「たまたま沿岸を訪れた内陸の人も津波の犠牲になっている」と堤防整備に理解を求めた。

井知事は「復興交付金は数年でなくなる。あとから『やっぱりほしい』と言われても造るのは難しい」と繰り返し説明。ポールで示した海拔9・9メートルの計画高に驚きを隠せない様子だったが、「皆さんの意見を聞きながら、最終的には私の責任で決断する」と語った。

「浮上式には踏み込めない」  
村井嘉浩知事は20日の定例記者会見で、気仙沼市の内湾地区で提案されている直立浮上式防波堤について、「もう1回議論するといいことはない」と導入の可能性をあらためて否定した。

その理由について、「100年、200年先に来るかもしれない津波に役立つ堤防でなければならぬが、浮上式がちゃんと稼働するという保証はなく、私の立場では踏み込めない。ここに来て後戻りすることもいい」と説明した。



魚町の堤防予定地を視察する村井知事